

## 名無しの暴力への逆襲

中 三

僕は、昨年の春休みに、とあるクイズ番組の新メンバーを決定するためのイベントの公開収録を観に行った。候補者十一名の中から新メンバーに選ばれるのは、たったの四名。会場は、想像以上に緊張感と熱気に包まれ、初めて生で見るクイズプレイヤーたちの迫力ある姿に、僕は圧倒された。そして、彼らがこの日のために真剣にクイズの対策をしてきたことが直に伝わり、感動で心が震えた。自分が応援している候補者にこそ、新メンバーの四人に選ばれてほしいという思いをもって収録を観に行った僕だったが、彼らの真剣な姿を見ているうちに、どの候補者がメンバーに入っても応援していこうという気持ちに変わっていった。

二日間に及ぶクイズバトルの結果、四人の新メンバーが決定し、SNS上でそれが発表された。収録のときの興奮を思い出し、わくわくしながら視聴者の人たちのコメントを読んでいたところ、ある新メンバーへの否定的なコメントが多いこと

に気付いた。新メンバーの一人に決まった女性メンバーに対し、「○○さんに有利な問題ばかり出題されていたのではないか」「○○さんは、以前から番組側に優遇されていた」「他の候補者よりも力が劣っている○○さんが、新メンバーに選ばれるのはおかしい」などという書き込みが、何十件もされており、いわゆる「炎上」が起きていたのだ。人気のあるクイズ番組だからこそ、ファンの人たちの強い思いから否定的な考えが生まれることは、僕にも理解できることだった。正直なところ、僕もその女性メンバーよりも実力のある候補者が、他にいるのではないかと、内心では疑問に感じていたからだ。しかし、実際に個人名を出し、世界中の誰もが見ることのできるSNSに気持ちをおつけるといえるのはいかなものか。しかもコメントを書いている本人ほとんどが匿名だ。多くのネガティブなコメントを読んでいくうちに、もしこの女性メンバー自身もこれらのコメントを読んでいたら、どのような気持ちになるだろうと胸が苦しくなった。本人はもちろんのこと、家族や親しい友達が数々の辛辣な意見を目にしたとき、その人たちはきっとショックを受けるだろう。コ

メントを書いている人たちにとっては、ただ自分の意見を正當に主張しているだけのつもりでも、受け取る側の気持ちを傷つけてしまうこともある。れっきとした誹謗中傷になり得るといふ現実を突き付けられた気がした。そもそもこのような「名無しの意見」は、意見などではなく、「言葉の暴力」に値するのではないだろうか。

それから一年、これらの「名無しの意見」に対し、彼女が反論したり、被害を訴えたりする様子は、見られなかったように思う。しかも、ダメージを受けて後ろ向きになるところか、彼女は、より熱量をもってクイズと向き合い、誰が見ても明らかかなほどに実力を伸ばしたのだ。これには、相応な努力を必要としたはずだ。SNS上では、彼女に対する誹謗中傷はほとんど無くなり、今では手のひらを返したように彼女を応援するメッセージが増えている。否定的な意見に対して、直接反論するのではなく、努力を重ねて自らの能力を高めること。これが、彼女にとっての「名無しの暴力」への逆襲だったのかもしれない。彼女の方が、一枚も二枚も上手だったというわけだ。

僕は、SNSでのトラブルについて耳にするた

びに、僕たち中学生にできることは何かを考えてきた。自分たちだけで問題を解決することは、とても難しいことだが、感情に任せて否定的なコメントを書き込まない、否定的なコメントや感情を拡散させない、信頼できる先生や友達、家族とトラブルについてよく話をする、という僕なりの解決策を頭に入れてこれまで過ごしてきた。今回、ここに新たに「日々、己の能力を高めて明日を生きる糧とする」という解決策を付け加えたい。これは、SNS上でのトラブルだけでなく、いじめ問題などにも有効な心構えとなるはずだ。実際に僕自身は、幼い頃から体が小さく、早生まれということもあり、何をするにも周りの同級生よりも劣っているとコンプレックスを感じていたが、思い返せばスイミングスクールの手選コースで毎日のように練習に励むようになった頃から、毅然とした態度をとることができるようになった。おそらく一つでも自分なりの取り柄ができたことで、自分に自信をもてるようになっていったのだろう。どんなことにだっていい。思い悩むばかりではなく、その分、自分を磨いて自信をつけよう。悩みを抱えているたくさんの人たちの背中を押せる



ような影響力のある大人を目指して、僕も日々、邁進していく。